

小松崎久さんを送る

玉尾 孜（地球物理研究施設）

地球物理研究施設では、此の度柿岡観測所勤務の小松崎久技官が定年退職されることになりました。小松崎さんは、5年間の非常勤職員としての期間を含めると昭和40年以来25年間にわたり45万平方メートルに及ぶ柿岡観測所の環境保守の任務を担当されて来ました。その構内は、富士山（ふじやまと読みます）と呼ばれる海拔152mの丘陵の頂上から娘の生息する湿地も含む広大な自然環境を形成しております。同観測所では、施設研究者による地磁気、大気環境モニター観測や自然電波・大気光の研究観測と共に、学内外研究者による重力・地電流測定、機器の検定等が実施されてきました。此の間、小松崎さんは建物内の整理を始め、宿泊して観測する人々の便宜を図るお世話も担当されました。観測所を使用された方々は、研究施設内外を問わず小松崎さんの温厚朴訥のお人柄に

接し好感を持たれたことでしょう。最近では、施設研究者が主導する海外多点地上観測の度毎に、観測機器の部品整備や梱包等の事前準備も分担されてきました。

定員削減事情の厳しい状態では更に続けてお仕事をお願いすることも不可能であり、4月以降は柿岡に出かけても小松崎さんから地元のお話をお聞きする機会もなくなると思うと残念でなりません。今になりますと、兎は勿論、豚コレラの流行以前は野生の猪までが観測所構内に出没した時期もあったことを伺ったのも懐かしい思い出となります。柿岡の周辺も自然環境破壊が進み始め、当観測所と隣接の気象庁地磁気観測所が孤壘を守る感となりつつある現状ですが、これまでのご苦労に改めて御礼申し上げると共に今後も時々はお立ち寄り頂けることを期待しております。